

※培養中に予期せぬ事が起こり、培養した細胞が移植に使えなくなった場合、試験を続けるためには再度骨髓液を採取することが必要となります。担当医師があなたの意思を確認しますので、その際に自由意思で同意するかどうかを決めて下さい。



⑥ 移植手術当日（壊死骨除去・血管柄付き骨移植・人工骨移植・細胞移植）

手術予定日の3～4日前に整形外科病棟に入院していただきます。手術は、全身麻酔のもとに、壊死した骨の中の組織を取り出し、その中に培養した間葉系幹細胞と人工骨材料を移植して、更に血管をつけたまま橈骨（とうこつ；手首にある2本の骨の一つ）の一部を移植します。この血管をつけたままでの橈骨の移植は通常の月状骨壊死の治療で行われている手技です。移植に用いる橈骨は10mm×6mmの大きさで、採取したために、大きな支障がでることはありません。月状骨に対する圧力を下げるために、周りの骨を一時的に鋼線で固定した後に、ギプス固定を行います。また感染予防のための抗生物質の点滴を行います。



⑦ 移植手術翌日～退院

手術翌日に、ギプスを除去し手術部分の消毒と状態の観察を行い、再びギプス固定を行います。術後1週目にギプスを除去し、再び手術部分の消毒と状態の観察を行い、ギプス固定を行います。術後2週目にギプスを除去し、縫合部位の抜糸を行い、再びギプス固定を行います。

これらの経過中、手術部位の感染が疑われた場合には抗生物質の点滴を再開する場合があります。予定される入院期間は、手術後およそ2週間です。